

第19回日本消化管学会総会学術集会・第50回日本潰瘍学会合同セッション
「免疫チェックポイント阻害薬使用による消化管粘膜傷害」

司会 古田 隆久（浜松医科大学医学部附属病院臨床研究センター）
穂苅 量太（防衛医科大学校消化器内科）

免疫チェックポイント阻害薬（ICI）が広く用いられるようになってきたが、免疫関連有害事象として下痢や潰瘍性大腸炎と類似の大腸炎が問題となっています。ステロイドの投与の加療が行われますが、難治例/抵抗例もあり最適な加療法が確立されたとは言えません。また ICI による消化管粘膜上皮障害の機序解明も基礎的な検討が必要と思われ、活発な議論の場としたいと存じます。基礎から臨床まで幅広く多数の応募をお願いします。